

開成の杜

第91号 ●2013年6月14日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所/学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人/学園長 関口 修



学園の春

(撮影 山口郁生)

『名誉学園長の思い出』



理事長・学園長
関口 修

啓蟄とか暑さ寒さも彼岸までとか、古来、人々が慣わしとしていた暦についての信頼が崩れた今年の天候は驚きに値します。しかし、子どもの頃、大神宮（開成）の杜の坂道は絶好のソリ滑りの場であった事を考えれば、何十年かに一度は今年の冬のような年もあると知らされます。

今年1月3日に数え100歳を以って他界した名誉学園長は「自然を凝視して師としよ」との思いを座右の銘とされていた。その思いは、自然は何時も同じではなく、微妙に変化をし、時には大きな地震や台風などの災害は人々が油断なく生活するための警告としてとらえ、災いを転ずる考えをめぐらすと共に自然が醸し出す美しさを賛美し友としておられました。そして、その思いは「自然を師として新たな学を」を創出しようと自らの経験に基づいて考えを巡らしていました。

名誉学園長は家政哲学を生まみ出すために昼夜の別なく研究に勤しみましたが、それを継続出来たのは、健康で健全な精神に恵まれたが故に適切なことのない集中力でした。学園の経営で困難な問題があっても、寸暇を惜しんで家政哲学の研究が継続されていたことは、学園関係者にとって

等しく驚きでありました。それだけ誠心誠意、学問と教育に向き合った人は極めて少ないでしょう。

真実を追求し虚偽を嫌うのは普通の人間として当然の事ではあります。名誉学園長は虚偽を極端に嫌い、他人の悪口を云う人間を軽蔑しました。冗談にせよ、他人の行為を歪曲し、嘘を云う人を許しませんでした。怠ける人も同様でした。その様な名誉学園長に嘘や他人の悪口を云うのはよくないことは承知していましたが、相手が反省しているのであれば、許すことも必要ではないかと尋ねた事がありました。しかし、名誉学園長は、悪魔に魂を売り渡した人ではないと厳しい答えでした。自らの姿勢に厳しかった名誉学園長でしたから、その言葉は重いものでした。

この様な名誉学園長の思いを如何にしたら学生・生徒の皆さんに伝えられるかが私に課せられた使命の一つでもあります。彼はと方策を考えていた時に、気が付いたのは、人々が襟元に付けたオリオンピック招致活動のシンボルバッジでした。

健康な肉体に健全な精神をやどし、常にフェアプレーをモットーとし、社会に役立つ女性に育って欲しいと云う願ひは名誉学園長の建学の想ひそのものなのです。学生・生徒の皆さんが建学の精神のもと、目的の為に手段を考え、着実に成長する事を願っています。

(H25.5.20記)

学校法人 郡山開成学園 創立67周年を祝う

声高らかに、青春の確かさを今

学校法人郡山開成学園の創立67周年を祝う記念式典が4月22日、建学記念講堂で学生と教職員1600人が出席して行われた。

講話の中で関口修理理事長・学園長は「春には珍しく降り積もった雪の重さを桜の木も感じているでしょう。蛍雪を越え学園創立67周年を迎えること、学園を代表する者として大変嬉しく思う。」

故関口富左名譽学園長は34歳の若さで、この開成の地に女子の高等教育の普及向上を図らねばと昭和22年に開学した。以来67年、尊敬・責任・自由の建学の精神のもと、東北地域有数の学びの学園へと充実、発展した。これからは新しい知識を得て、新しい学問や世の中をつくろうという思いをもち成長して欲しいと話した。

このあと、教職員全員が登場し、開成学園オーケストラの演奏で「吾子よ 健やかに晴れやかに」と若者賛歌「吾子」を歌い上げた。

これに対し、応答歌「青春の確かさを 今」を学生側が歌い、最後は



第67回創立記念日



「若者賛歌」を合唱する教職員一同



講演する津野田・ジョイス・幸子氏

教職員と学生との大合唱となった。教養講座も開かれ、津野田・ジョイス・幸子元ハワイ大学上席副学長兼ハワイ大学コミュニティ・カレッジズ総長が「日本の女性に望むこと」と題して講演した。

山田幸二先生に 名誉教授称号記が授与される

名誉教授称号授与式で、多年にわたり郡山女子大学・同短期大学の副学長・教授として尽力し、教育及び学術上で顕著な功績のあった山田幸二先生に、本学より名誉教授称号(第9号)が授与された。



名誉教授称号を授与される山田幸二先生

永年勤続者表彰

記念式典の席で永年勤続者を称える表彰が行われ、6名に記念品と金一封が贈呈された。受賞者を代表して大学・人間生活学科の深谷笑子准教授が「故関口富左名譽学園長の教えを守り、今後も学園発展のため研究と教育に精一杯努力します」と述べた。

- 【勤続40年】 表彰者は次の通り。(敬称略)
 - ▲大学/深谷 笑子
 - ▲勤続20年
 - ▲幼稚園/賀門 康博
 - ▲事務局/結城マチ子

平成24年度卒業生就職率 全国平均を上回る

平成24年度卒業生の本学の就職率は大学100%、短大98%と高い内定率になっている。その中でも大・人間生活学科・食物栄養学科及び短期大学部家政科福祉情報専攻・幼児教育学科は就職率100%を達成している。各学生の努力と本学の教職員のきめ細かな対応とその成果の表れでもあり、今年も更に就職支援を強化していきたい。

今年も就職部では大学3年生、短大1年生を対象に7月から就職ガイダンスや各種講座を計画的に実施し就職支援をしていく。就職対策講座を9月12日・15日まで集中で行い、就職活動に役に立つ感動の講座を実施予定。公務員試験等対策基礎講座は10月・11月・3月には公務員を希望する人や企業の一般常識にも対応していくので、この機会を逃さないで活用してほしい。

景気に明るい兆しが見え、デフレから脱却する展望が見え始めているが、雇用環境はまだまだ厳しい。そのような状況で、本学学生もすでに内々定を獲得し始めている。



表彰された皆さん

- 【勤続10年】
 - ▲大学/紺野 信弘 石田 智宏
 - ▲家庭寮/若林 里美



第5回就職ガイダンス(面接対策)

短期大学基準協会(関口修理事長=JACA)と米国西地区学校・大学基準協会二年制高等教育機関認定委員会(ACCJC/WASC)と連携協定締結

平成25年3月21日に短期大学基準協会(理事長 関口修・本学短期大学部学長)は米国西地区学校・大学基準協会二年制高等教育機関認定委員会と連携協定を締結した。

WASC(The Western Association of Schools and Colleges)はアメリカ合衆国において、公立及び私立の学校、短期大学と大学を認証する6つの

地区基準協会の1つで、カリフォルニア州、ハワイ州を管轄している非政府組織の評価団体です。ACCJC(Accrediting Commission for Community and Junior Colleges)は、WASCの下部機関で、主に、コミュニティ・カレッジと短期大学の認証を行っています。今後、協定に基づき短期高等教育の質の向上や認証評価の改善などについて協力して取り組んでいく。



調印式にて署名する関口修・短期大学基準協会理事長(中央)



ACCJCの皆さんと関係者



取り交わした協定書

※資料・写真の提供は短期大学基準協会です。

学園葬 故関口富左名誉学園長・学長先生 やすらかにおやすみください。

学校法人郡山開成学園の創設者、故関口富左名誉学園長・学長先生の学園葬が1月29日建学記念講堂で厳かに行われた。学園に関係する文官財をはじめマスコミ、一般企業等の代表者や卒業生など1800名が哀悼の意を表した。

「富左先生」と誰からも敬愛された関口富左名誉学園長・学長先生は、体調を崩され入院されておられたが、平成25年1月3日午前11時40分、不帰の客となられた。満99歳だった。春に満100歳のお祝いと思っていた教職員や卒業生にとって、突然の訃報となった。

学園葬は1月29日、建学記念講堂で2回に分けて行われた。午前中は在学生、教職員。午後是一般、卒業生。祭壇中央には故関口富左名誉学園長・学長先生の大きな遺影と遺骨が飾られ多くの花々で埋め尽くされた。

葬儀委員長の関口修理事長が、故名誉学園長は「女子の高等教育がこれからの日本を創るとの熱い思いで学園を創設、今日、幼稚園から大学院まで育て上げた情熱」を振りかえった。全員で黙祷の後、来賓の小松親次郎文部科



故関口富左名誉学園長・学長の学園葬

学省高等教育局私学部長、佐藤弘毅日本私立短期大学協会会長らが弔辞を読み上げた。

郡山開成学園家族会と附属幼稚園を代表して渡辺隆弘氏、さらに大学から幼稚園までの各同窓会を代表して安齋悦子短期大学部同窓会長、教職員を代表して影山彌副学長・理事が在りし日の故富左先生の面影を偲びながら、「われわれ教職員一同は理事長・学長と力を合わせ本学園の益々の発展に努力します」と霊前に誓った。



富左先生の棺を乗せた車を、手を合わせ見送る在学生、教職員と関係者



在りし日の富左先生。「学園オリンピック」にて。

特集 研修紀行 大学・短期大学部

【パリの文化に触れて】

人間生活学科4年 小野 咲紀

パリでの福祉施設見学を通じ、フランスの福祉を学びました。日本とは異なる制度を感じました。パリの施設見学は、日本の福祉の在り方について考える良い機会となりました。また、パリの文化に触れながら過ごすことで、学ぶべき点も得ました。一方、日本には、パリの文化には無い素晴らしい文化や風土、風習があることを、日本を離れて気付くことができました。このような貴重な経験をさせてくださった学園と家族に感謝しつつ、得たものを今後の学業に生かして行きたいと思えます。



ヴェルサイユ宮殿にて

【海外研修を終えて】

幼児教育学科2年 磯貝 亜衣

海外研修に参加し、とても良い経験ができました。幼稚園と保育所の視察、ハイデルベルクでの城・学生寮の見学、人形劇鑑賞など様々な場所を訪れドイツの幼児教育や街の風景を味わいました。また2日間のホームステイも行いました。その中で一番印象に残っているのは幼稚園を視察したこと。1日の流れや子ども達が好きな遊びは日本と似たようなものですが、遊具として本物の台所や大工道具が保育室にあったのには驚きました。将来やらなければいけないことを共に学ぶためだと伺いましたが、日本の保育にはないことだと思いきや新しい発見にもなりました。短い期間ではあったが、ホストファミリーの方と仲良くなれたり良い体験ができて良かったです。そしてドイツにいる間お店の方やホストファミリーの方に掛けられた言葉があります。それは震災のことについて。原発事故の件もとても心配していました。2年経った今でも忘れず応援してくれる方がいることに心が温かくなりました。今回学んだこと、感じたことを今後忘れず活かしていきたいです。



グリム兄弟の銅像の前で

心温かくなりました。今回学んだこと、感じたことを今後忘れず活かしていきたいです。

【ザルツブルク・ウィーン海外研修】

音楽科2年 日向 美鶴稀

今回私たちは1週間オーストリアへ研修に行つて参りました。ザルツブルクではミラベル宮殿や大聖堂などを見学し、特にモーツァルトの生家での愛用のピアノやバイオリン、直筆の楽譜には感動しました。ウィーンでは新ウイン楽派を代表する作曲家ベルクのオペラ「ヴォツェック」を鑑賞し、オーケストラのハーモニ、劇場全体に響きわたる歌声などに感動しました。また、美術館でもオーストリアの歴史に触れることができ、世界屈指といわれている美術作品の数々に圧倒されました。片言のドイツ語ではありましたが、現地の人とコミュニケーションをとることができ、緊張しつつも伝わる楽しさや嬉しさを感じることができました。



ウィーン国立歌劇場

【古都での研修を終えて】

生活芸術科2年 二瓶 つかさ

私たち生活芸術科12名は、3月1日から奈良・京都で3泊4日の研修旅行へと行つて参りました。4日間、様々なお寺などの見学施設を回り、数多の遺産を拝観してきました。どの見学場所もある意味での新鮮味があり、遺産の一つ一つに感慨を覚えつつ、歴史的文化の知識を更に深めることができたと思います。また、バスでの移動時間もガイドさんが各地の観光地にまつわるお話をしてくださり、有意義な時間を送ることができました。今回の旅行を通して、長い時間をクラス全体や班別で行動し、共に研修を行いました。そのため、話すきっかけが学校生活よりも多くなり、以前よりもお互いの距離が縮まったのではないかと思います。美術研修として、友人との絆を深めることも、一生の思い出に残るような旅行となったのではないかと思います。



法隆寺前にて

【瀬戸内の歴史と文化の旅から】

文化学科2年 石川 真帆・関根 唯・高山 内妙

私たちの4泊5日の研修旅行は広島から始まり、四国の愛媛・香川を経て兵庫の姫路城に至る瀬戸内海を囲む4県の様々な文化施設をまわりました。また広島では震災ボランティアの方々と交流する機会もありました。一番印象に残っているのは、島全体がアーチの宝庫になっている直島です。特に本村地区の自由散策は思い出深いものになりました。角屋という家屋の「シー・オブ・タイム98」という作品は、水面の様々な速度で動く沢山の数字が実は島民一人ひとりの手によつて速度が決められたと知つて感動しました。またあの素敵な芸術をゆつくり噛みしめに瀬戸内を旅したいです。



直島・草間彌生さんの作品

【研修旅行を終えて】

家政科福祉情報専攻2年 秋葉 萌花

私たちは東京方面(2泊3日)で、福祉と情報・ビジネスに関する見学研修を行いました。新宿区立障害者センター内「新宿トライ工房」では、障害者と「エコ葉書」の製作を通して、「サービスを受けるばかりではなく、提供する立場になりたい」という強い思いを聞き、感銘を受けました。また、重度身体障害者施設「あじさいホーム」では、利用者の意見や要望を最大限に生かし、自分らしく自立して生活できるサポートや環境を見ることができました。いつもとは違った角度から見た施設や情報の現場は、多くの発見や体験すること初めてわかることもあり、大きな収穫でした。この研修で得たことを、今後の就職活動にも生かしたいと思っています。



TDLでホスピタリティ研修

308人が入学

大学・短大・専攻科

開成の杜の桜がほころんだ4月5日、郡山女子大学大学院修士課程第21回、郡山女子大学大学院短期大学部第64回、同専攻科第14回の合同入学式が建学記念講堂で行われた。

郡山開成学園オーケストラが「コラール すべの宝にまざる宝」を演奏した後、大学院修士課程2名、大学73名、短期大学部233名の計308人が入学を許可された。関口修学長は告辞のなかで「ご家族に見守られての入学式おめでとう。尊敬・



私が郡山女子大学を志願した理由

私が本学を志願した理由は、家庭科教員の免許を取得し、本学が大切にしている家政学の重要性を伝えられる人材になりたいと考えたからです。また、故郷福島で学び、将来地元で貢献しながら復興の手助けをし、多くの方々への笑顔を見たいと思ったからです。

夢の実現のためにも素晴らしい先生方から多くの事を学び、建学の精神のもと、専門性を深め、目標に向かって頑張りたいと思います。



大学 食物栄養学科
星 有佑子

私は昔から、食べることが大好きでした。将来は絶対「食」に関わる仕事に就こうと思い、母の勧めもあって管理栄養士になることに決めました。そこで出会ったのがこの大学です。管理栄養士養成施設としてだけではなく、県内企業への就職率も高く、何より「尊敬・責任・自由」という「建学の精神」に深く共感を持ちました。国家試験に合格するための勉強ももちろんですが、一人の女性として人間性も高められたらなあと思志願しました。



短期大学部 文化学科
高橋 楓

私が文化学科を志願した理由は、遺跡の発掘調査という貴重な体験ができるからです。私は小学校5年生から中学校2年生まで「宮城縄文探検隊」という地域の活動に参加して、そこから縄文時代の遺跡に興味を持ちました。本学ではそういった専門的な知識や必要な資格について学べると思い入学しました。

それらについて2年間で学び、自分を高めたいとも将来にいかせるよう勉学に励みたいと思います。

私が附属高等学校を志願した理由

私が附属高校を志願したのは、自分の夢を叶えるためです。私の夢は、自分で全国大会に出場することです。附属高校では全日本のチームで活躍した冨本先生に指導頂けると聞き夢が、一歩現実に近いものを感じました。また、新設部ということから自分たちが一から歴史を創っていくことができるということにも大きな魅力を感じて入学を決意しました。もちろん、文武両道で学校生活を充実させていこうと思っています。



附属高等学校 食物科
浅倉 冨美

私の夢は管理栄養士になって、高齢者の方から小さい子供まで、身体でも心でも、食べることを楽しんでいただけるような「食」を提供することです。私はこの夢を叶えるために確実な力をつけることができる本校の食物科を志願し入学しました。料理に対する知識や包丁の使い方などこれからは必要なスキルが学べると聞いて入学を決意しました。夢の実現を目指して努力を惜しまず、授業に積極的に臨み充実した高校生活を過ごしたいと思っています。



卒業

蛍の光に送られて

大学院・大学・短期大学

大学院第20回、大学第44回短期大学部第62回、短期大学部専攻科第12回の修了式・学位記授与式および卒業式が3月19日、建学記念講堂で行われた。

郡山開成学園オーケストラによる演奏「ワグナー」作曲より「ローエングリン」より「エルザの大聖堂への行進」が演奏されたあと式典に入った。

この日集ったのは大学院修士課程2名、博士課程1名、大学120名、短期大学部275名、短期大学部専攻科6名の計404名。関口修学長から学位記および卒業証書が各科総代に手渡された。関口学長は「本学の尊敬・責任・自

由の建学の精神を忘れず、自分の能力を発揮し、より良い社会を築くために皆さんの努力に期待します」と告辞。

来賓の原正夫郡山市長、大内嘉明郡山市議会議長、郡山開成学園家族会明珍賢司会長、郡山女子大学同窓会名誉高恵子会長が祝辞。附属高校代表の吉田真美さん、附属幼稚園代表の鈴木拓海ちゃんと市川真名ちゃんが別れの言葉を述べた。また在校生代表の山口采緒美さん(短大家政科食物栄養専攻)が送辞。卒業生を代表して渋谷陽美さん(大学院・人間生活学研究科)、佐藤由佳さん(大学・食物栄養学科)が答辞を述べ、卒業生は笑顔で思い出深い学舎をあとにした。

附属高等学校

ひな祭りの3月3日、附属高校の第54回卒業式が記念講堂にて盛大に挙行された。

普通科125人、音楽科11人、美術科10人、食物科36人の計172人が式に臨んだ。呼名のあとそれぞれ科の代表に卒業証書が学校長から手渡された。次に賞状授与があり、学部長賞2名、学校長賞7名、皆勤

附属幼稚園

梅のつぼみもふくらみ始めた3月21日、附属幼稚園の卒園式が行われた。

一人ひとり呼名されると元気づく返事をし、賀門康博副園長から「げんきであかるく、てんまでびよ」と書かれた卒園証書が渡された。

卒業研究発表会

■大学院人間生活学研究科
大学院博士(後期)・修士課程の論文発表会が2月7日に行われた。研究テーマは次の通り。

- △公共建築における木材利用と木育に関する研究―福島県の木材利用活性化を目指した基礎的調査―
- △個室ユニット型特別養護老人ホームに関する研究―その本質的意味とあり方の探究―△住宅におけるパリアフリー化に関する研究―今後の方向性を模索する上での基礎的調査―

大学・短大は1月末から2月にかけて各科ごとに発表会を開催した。主な研究課題は次の通り。

■大学・人間生活学
△認知症高齢者のケアのあり方に関する一考察―バーノン・センタード・ケアを視野に入れて―△愛着障害が将来に与える影響―A子さんの事例より―△東日本大震災について―意識の変化と課題―△快適な履物に関する検討

■大学・食物栄養学科
△食商品のマーケティング―△未加熱冷凍すり身から製造した笹かまぼこの性状・△インスタケ目きの脂肪酸組成の特徴と分類△母乳中の放射線核的分析

そして年長組からの「おくることば」を受けて、卒園児全員が大きな声でおこたえし、お別れの歌を歌って式を終えた。

クラスでは一人ひとりに卒園記念の梅の苗木を手渡され、「よくみる よくきく よくかんがえて」を胸に学園を巣立つ、い

■短大・文化学科
△冥婚―東北地方の死生観―△ツイジエルの生涯と作品△会津戊辰戦争と婦女隊△壊れた土器の研究―笹原遺跡NO16出土の土師器を用いて△魔法の原像―メルン「ラフツェル」を手掛かりに

■短大・幼児教育学科
△児童文化の創造における教育的意味―「シアター」を中心に△クラスの雰囲気における先生と子どもの関わり方―△エピソード調査△光と影の表現―身近な素材による表現の試み―△オペレッタ「Wonderland」△リス△劇「ドリームサーカス」△力を合わせて

■短大・家政科食物栄養専攻
△学校給食の時代による変遷△食物繊維食品を用いて試作したオンレンジリー△凍み大根の作り方がナトリウム含量に及ぼす影響△女子大学生の健康管理―お腹の調子を整える△塩麹の利用

入学



附属高等学校

4月9日、開成の杜の満開の桜に迎えられて、平成25年度郡山女子大学附属高校の入学式が建学記念講堂で挙行された。

式は開成学園オーケストラによるワグナー作曲、歌劇「ローエングリン」より「エルザの大聖堂への行列」の演奏に続いて厳かに進められた。



附属幼稚園

附属幼稚園の入園式が4月12日に行われた。年少組24人、年中組4人の計28人が新たに仲間入りした。

新入生110名(普通科56名、美術科13名、音楽科8名、食物科33名)は、担任の呼名に対し「ハイ」と大きな声で返事して起立、八幡校長から入学が許可された。

関口学部長から「家族の応援に感謝し、尊敬・責任・自由の建学の精神のもと着実に歩を進め、学業にスポーツに取り組んでほしい」と述べた。在校生の穂積春乃さんが祝辞を述べたあと、新入生を代表して堀池敦美さんが保護者と誓いの言葉を述べた。

続いて在園児から新入園児にお祝いの言葉と手作りのペンダントが贈られた。新入園児は大きな声で「幼稚園のお約束を守りよ子になります」と大きな声で誓った。最後に在園児と新入園児で園歌「ふぞくの子」を歌った。



ようこそ開成の杜へ

自らを磨いて“美しい私”を創りましょう

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム

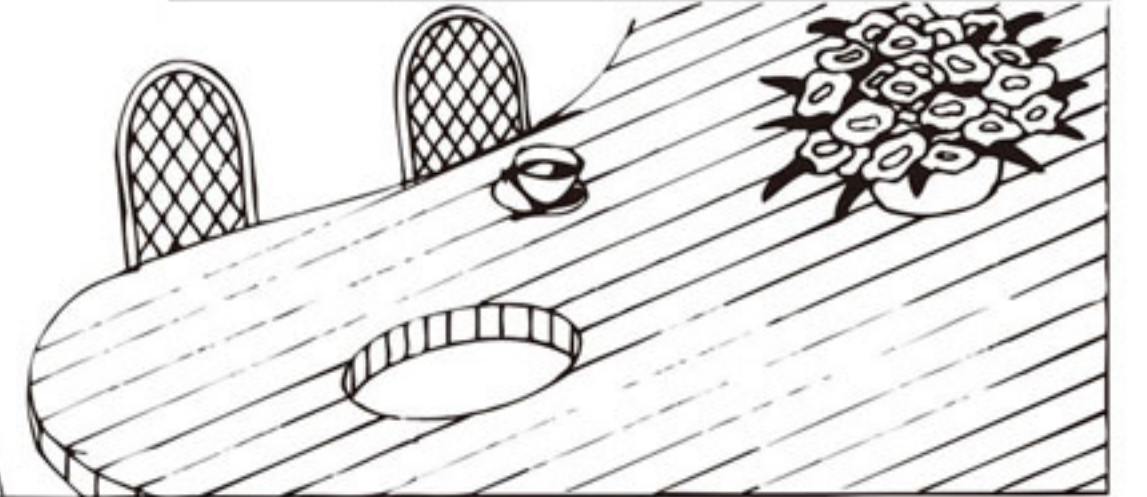


イラスト 佐藤 悦美

見えないもの

石原 正道

暖かな光をうけた緑は美しく、ときおり風景を写真におさめておきたくなる。私たちは眼にうつる景色によつて自然を美しいと感じている。では本当に自然を認識することができているのだろうか。

人間に見える光を可視光と呼ぶ。私たちは可視光により自然を見ていくことになる。可視光以外の光があるということ、私たちがの周りに見えない世界がありうることを意味する。事実、私たちには見えない紫外線を昆虫は見る。ことができ、効率的に蜜を探すことができる。また色を表現するための基本となる色の数は、人間では3色であるが、蝶では4色であるようだ。蝶はとてカラフルな世界を見ているのかもしれない。可視光や紫外線だけでなく、電波や放射線(ガンマ線)も光である。も

し人間が電波を知覚することができたならば、受信機なしでテレビを見ることが出来る。人間は光のごく一部を知覚できるにすぎない。知れば知るほど、私たちが見ている世界はほんのひと握りであることに気付かされる。



スミレ
馳せるのも悪くない。
(大学・人間生活学科准教授)

このひと握りの自然に触れることで私たちはやすらぎを感じる。草花の写真を撮りながら、見えないものに思いを馳せるのも悪くない。

私の高校生活



附属高等学校 食物科3年 増子 亜希

私は幼い頃から料理が好きで、小学校の頃には「食」に関する仕事に就くことを夢見ていました。その夢を実現させるために、附属高校の食物科に入学しました。調理師の資格を得るための毎日は、決して楽なものではなく、勉強と実習の両立という忙しい生活がスタートしました。

しかし、同じ夢を持った仲間達との生活は、とても充実しています。自分を理解してくれ、いつも笑顔で支えてくれる仲間と出会えたこと、共に学んで成長できることは、本当に幸せなことです。
入学時、食物科と同じくらい興味を持ったのは、部活動です。音楽も好きだった私は、中学時代、合唱部に所属していたこともあり、当り前のように音楽部へ入部しました。高校の部活動は、部員自らが作っていくという形で、初めはついて行くのが精一

杯でした。しかし、毎日目標を決め、時間を有効に使うことで、食物科との両立もできるようになりました。

3年生になると部長という大役を任せられることになりました。部員をしつかりとまとめ、部活動全体をよい方向へ進ませることができたのか、とても不安でした。しかし、同級生の支えや先生方のたくさんの方の暖かいご指導があり、私は部長としてなんとか部活動をまとめられています。

3年生になって専門教科の内容も難しくなり、部活動との両立はますます難しくなっています。これから辛い時、苦しい時が多々あると思います。ですが、常に前向きに、私らしく日々の生活を送っていきたくと思っています。

今の自分があるのは、食物科の仲間、部活動の仲間、多くの先生方、そして家族の支えがあり、いつも乗り越える力を与えてくれるからです。これらの多くの人達への感謝の気持ちを忘れず、これからも附属生の一員として精いっぱい歩んでいきたいと思っています。

目標を持って



大学・人間生活学科 福祉コース3年 影山 千寿

私は、介護福祉士・社会福祉士受験資格を取得するため人間生活学科・福祉コースに入学しました。これまで3度の介護実習を終え、2度の相談援助実習を残すのみとなり、実習に向け必要な知識を身に付けるために日々勉学に励んでいます。また、もみじ会の発表を良いものとするために学科の仲間たちと準備に取り組んでいます。
サークル活動では弓道部に所属し

ています。私は高校生の時に弓道を始めました。入部したきっかけは少

しの興味と、弓を引いてみたいという好奇心からでした。辛いこともあり何度か辞めようと思いましたが、仲間達と一つの事を成し遂げるとい達成感、面白さなどから3年間続けることができ、大学でも弓道を続けるに至っています。現在は主将として10人の部員と共に日々練習に励んでいます。昨年はⅢ部リーグで優勝を果たし、念願であったⅡ部リーグに昇格することができました。今年度もシーズンが始まり、新勢力として1年生も迎えました。先輩という立場である事も自覚し、弓道部の今後を担う後輩の育成にも力を入れた、インターカレッジに向けて本格的に練習を始めています。

3年生という事もあり、実習やもみじ会の準備であまり練習できない時もあるかもしれませんが、サークル活動と学業を両立させ、充実した大学生活を送るために頑張っていきたいと思っています。

私の本棚

少年少女

世界の名作文学

郡山女子大附属高校

教諭 鈴木 裕子

私はどちらかと言えば捨てることを躊躇しない人間である。しかし絶対に手放せないものがいくつもある。私の本棚にこの50年間燦然と輝き、その存在を不動のものにして、小学館版「少年少女世界の名作文学」全50巻もその一つである。小学校時代の私は体力勝負のおてんばであったが、月に一冊ずつ届くこの本のおかげで、読書という豊饒な時間を満

日本に家政学が誕生したのは、昭和24年、国立の二大学に設置された家政学部であるが、まもなく家政学部が改称された。しかし、平成4・5年には、それぞれ生活科学部や生活環境学部に改組され現在、国立大学で家政学部の名称は消えてしまった。私学でも家政系の大学短大は名称変更し、家政学部家政科を名乗り続けているところは少なくなっている。

さて、日本で家政学部・家政科と言えば、その学生は殆ど女子であると考えられる。家政学は女子の学問と思われている方も多いことだろう。飯島信男の『男の家政学』(1986年)によれば、オーストリアのホルベルクが「貴族の地方生活」と

喫する時を持つことができた。世界中の文学の中から選りすぐられた心躍る作品はもちろん、本の扉を飾る世界の名画の美しいこと。第1巻はミケランジェロの「聖家族」。この本を手にとるときの胸のドキメキはその後何十年たっても変わらない。数年前、何かの折りに同僚のある先生と、この全集の話になった。合縁奇縁、その人も同じ思いで50巻を揃えているとか。その時この全集が川端康成、中野好夫、浜田廣介らによって編集されていたという衝撃の事実を知った。幼いながら心躍ったワケである。妙に納得。とにかくこの全集は作りが丁寧である。創った人の熱意と情熱がちゃんと伝わってくる。「愛」があるのだ。だからカラモノになる。

生活診断室

シリーズ 53

男の家政学「家政」は本来男のものだった

郡山女子大学

准教授 深谷 笑子

という家政学を書いている。それは「家政学」ともいうべき内容で、17世紀から18世紀前半にかけてドイツで発達したこと、家政は本来、男のものとして述べられている。当時の紳士は学問や武術だけではだめで、手芸もでき、料理も作れなければ一人前とは言えなかったようだ。「家父学」には、親子・夫婦関係・隣人・村人との付き合い方、公衆衛生や道路、養魚池などの管理といった行政面なども心得ていなければならぬこと、つまり「家政」は男の大事業と論じられている。家政学は女子の学問と思われている今日、男性が日常的に家政学を学ぶ時代は来るでしょうか。

時は流れ、今現在の私の本棚に横になって平積みされて出番を待っているのは、「聖書」関係の、というより宗教関係の本である。何年前か、義理の母から「歴史の中の『新約聖書』」加藤孝著をプレゼントされたのが始まりであった。私はクリスチャンではないが、聖書には根源的な何かがあると感じる。その聖書にこれからゆくり向かい合っていくかと思いついた。大人買いした次第である。しかし、日々の忙しさに紛れ、その本たちは恨めしげに「まだ読んでくれないの?」とばかりに斜め45度の視線を投げかけてくる。「ゆっくり、ゆっくりね」と答えて背表紙を楽しみながら現在に至っている。

ようこそ 郡山開成学園へ

新任教職員の方々のご紹介

郡山女子大学

〔本採用〕

(四月一日付)



石堂 常世 教授・副学長
早稲田大学大学院文学研究科博士課程六期第一大学哲学科博士課程
所属 大学・人間生活学科



廣野 正子 講師
東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻修士課程修了
所属 大学・人間生活学科



根本 恵美子 講師
郡山女子大学短期大学部家政科食物栄養専攻卒業
所属 大学・食物栄養学科



亀田 明美 講師
福島大学大学院人間発達文化研究科学校臨床心理学専攻学校福祉臨床領域修了
所属 大学・食物栄養学科



佐藤 浩明 講師
明治大学政治経済学部経済学科卒業
所属 大学・食物栄養学科



源川 博久 講師
東京農業大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了
所属 大学・食物栄養学科



小林 澄枝 講師
郡山女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了
所属 短大・家政科食物栄養専攻



山田 祥正 教授
東北大学大学院教育学研究科教育学専攻
所属 短大・幼児教育学科



小林 徹 准教授
東北大学大学院教育学研究科教育学専攻
所属 短大・幼児教育学科



小林 徹 准教授
東北大学大学院教育学研究科教育学専攻
所属 短大・幼児教育学科



折笠 国康 講師
山形大学大学院教育学研究科学校教育専攻教育心理学分野修了
所属 短大・幼児教育学科



永瀬 悦子 講師
福島大学大学院地域政策科学研究科修了
所属 短大・幼児教育学科

附属高等学校

〔本採用〕



尾坪 大輔 教諭
東北芸術工科大学芸術文化専攻日本画研究領域修了
所属 附属高校・美術



水澤 成宏 教諭
東京理科大学大学院理学研究科数理教育専攻修了
所属 附属高校・数学



本間 杏菜 助学学務担当
郡山女子大学家政学部食物栄養学科卒業
所属 大学・食物栄養学科



鍵谷 喜和子 講師
武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
所属 附属高校・美術



深谷 純子 講師
青山学院大学文学部史学科卒業
所属 附属高校・地理歴史



吉田 文代 講師
中央大学文学部社会学情報学専攻卒業
所属 附属高校・情報



増子 恵美 講師
福島大学共生システム理工学部共生システム理工学類環境システムマネジメント専攻卒業
所属 附属高校・理科



渡邊 雅也 職員
福島県立浜高等技術専門学校電子制御科卒業
所属 就職部



菅野 真由美 職員
郡山女子大学短期大学部家政科家政専攻卒業
所属 高校事務室

昇任

▲大学／准教授 熊田伸子(講師)・准教授 垣花真一郎(講師)・准教授 佐藤典子(講師)・短大／教授 深谷登喜子(准教授)・准教授 水野時子(講師)・助手(学務担当) 高木恭子(助手(授業補助担当)) 高校／校長 八幡文明(副校長) 高校事務室／事務室長 齋藤一郎(係長) 村田菜織(主任) 保全用務係主任 安田英夫(附属幼稚園) 園長 賀門康博(副園長) 事務局／事務局長 佐久間勉(総務部長) 事務局次長 関口晋(教務部長) 補佐(総務部長) 大和田三彦(総務部長) 就職部／部長 森みい(課長) 総務部／秘書課係長 熊田敦也(主任) 教務部／教務係長 辻 和宏(主任) 経理部／経理課係長 高橋 一(主任) 管財部／用度係主任 佐藤利枝子(管財係主任) 安斎文明

平成24年度で退職された方々

【第一年度】▲短大／宗方隆子講師・小山裕准教授▲高校／鈴木容子職員・八幡文明副校長▲放送大学福島学習センター／鈴木健介職員【第二年度】▲大学／深作嘉代講師▲短大／小松文子准教授▲事務局／江藤正良就職部長(依願退職)▲大学／北川圭子教授 佐藤美津子講師・川上優子助手▲短大／中井大介講師【期限付期間満了退職】▲短大／熊田みちよ准教授 飯田謙実講師▲高校／川名忠造講師・長谷川雅子講師 堀越里枝講師 佐藤敏夫講師【職員】▲高校／水野武夫▲事務局／藤井陽光 本田光生

異動

▲庄司一郎 短大教授(大学教授) ▲欽野信子 大学准教授(短大准教授) ▲横溝聡子 短大准教授(高校教諭) ▲大泉由美 大学助教(高校教諭) ▲増井志真 事務局・学生生活部(高校講師) ▲五十嵐理恵 事務局・教務部(助手・学生生活担当) ▲結城マチ子 入学事務部(学生生活部) ▲青柳益司 管財部(入学事務部)

NEWS 学園ニュース

【表彰】

平成25年度

福島県私立中学校高等学校協会 永年勤続教職員表彰

▲勤続25年

宗形 盛夫(附属高校 主事) 渡邊 泰夫(附属高校 教諭)

インスタントラーメン オリジナル料理コンテストで 豊島さんが入賞

日本即席食品工業協会主催「第11回インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト2013」で、豊島みきさん(附属高校3年)の作品「イタリア風〜ピリ辛つけ麺」が入賞した。コンテストには全国から1692点の応募があった。豊島さんは、12人が通過できる書類審査を突破、東京で行われた決勝大会で調理し、昨年に続いて入賞した。

春高バレー初戦突破ならず

第65回全日本バレー高校選手権大会が1月5日、さいたま市のさいたまスーパーアリーナで行われた。県大会決勝で磐城一高を3-1で破り、5年連続16回目の出場の本校は、1回戦で京都橘(京都)と対戦。インターハイ8強で平均身長170センチの高さの前にスパイクがプロットにつかまるなど、0-2でストレート負けを喫した。チームは佐藤新監督のもと、インターハイ出場を目指す。

牡丹杯剣道大会でV

第38回牡丹杯剣道大会が4月29日、須賀川市の須賀川アイアリーナで開催され、高校女子の部で附属高校剣道部が白河旭、白河を破り優勝した。

小野中学が2年連続 8回目の優勝を飾る

第24回郡山女子大学附属高等学校校長杯バレーボール大会が2月24日に行われ、小野中学校が2年連続8度目の優勝を飾った。

大会には県中、県南の12チームが参加。4ブロックで予選リーグを行い、1位のチームが決勝トーナメントで対戦した。

成績は次の通り。

優勝 小野中

準優勝 郡山二中

3位 東北中

大槻中

ハンドボール部公式戦デビュー 20点奪取!

この4月に創部されたばかりの附属高校ハンドボール部が、第64回春季大会で公式戦にデビューした。前半5-18、後半15-11と東稜高校を相手に8人の部員は善戦したが、目標の初戦突破は成らなかった。

試合の後、小湊主将(1年)は「富本監督の指導を受け、強くなり、3年生の時はインターハイに出場したい」と力強く語った。

斎藤清楓さんがV

第16回県弓道遠的選手権大会が4月27日、開成山弓道場で行われ、附属高校3年の斎藤清楓さんが優勝、同じく3年吉田優美さんも5位に入賞した。

2人は7月13日から同弓道場で開催される国体の最終選考会に出場する。

マーチング&パトンステージ 3年連続優秀賞・講評者特別賞

第12回マーチング&パトンステージ全国大会が2月23日、横浜市の神奈川県民ホールで行われた。

3年連続4回目の出場の本校は、部員32人が「シルク・ドゥ・ソレイユ」の「ラヌーバ」からリストリートなど3曲を演奏し、優秀賞・講評者特別賞を3年連続受賞した。

平山教諭は「元気の福島県を全国に伝えることができ、100点満点です」と生徒をたたえた。

人気NO1はトマトと アボカドのオープン焼き 短食とアサヒビール園との連携企画

短大・家政科食物栄養専攻の学生がアサヒビール(株)福島支店と連携してアサヒビール園の期間限定メニューを初めて開発した。本県産の食材を使うことを条件に考案された「カツ丼寿司」「たまごエビチリ」「ヘルシークレープ」など女性の感性を生かした彩りも鮮やかな7点が選ばれ、3月25日から4月25日までの1ヵ月間販売された。アサヒビール園、四季の里での売れ行きNO1は「トマトとアボカドのオープン焼き」で目標の140パーセントの売り上げだった。



人気NO1のトマトとアボカドのオープン焼き



開発に協力した短大・食物栄養専攻の学生

計報

藤沼 和雄 先生
元郡山女子大学附属高等学校教諭
4月30日死去。74歳
ご冥福をお祈り申し上げます。

モニュメント「成長」が新しく!

創立10周年(1956年)を記念して正面玄関に建てられ、学園の記録が収められていた、記念碑「成長」が新しくなった。

東日本大震災で被害を受け、今回大理石で新たに制作された。上部に建学の精神が刻まれ、台座には「ここに建



新しくなったモニュメント「成長」

学の精神を記し、本学発展の礎とする」と記されている。

吉田(陸上) 佐藤(バレー) 新監督抱負を語る

4月から附属高校教諭に陸上女子3段跳びで、日本選手権8回優勝の吉田代さんと、バレーボール実業団で、国内外の監督やコーチを務めた佐藤浩明さんが講師として着任、指導者としての第一歩をスタートさせた。

吉田先生は千葉県出身で中央大卒。2007年には大阪で行われた世界選手権にも出場。日本歴代2位の13m50cmの記録を持つ。現役を続けながら、陸上部も指導。「陸上を通して福島の復興に少しでも役に立ちたい。生徒が一つでも上の大会に進められるよう後押ししたい」と抱負を語った。



抱負を語る 佐藤さん(右)、吉田さん(左)

の日立や東北バイオニアなどを指導「まずインターハイ県大会での優勝が目標。選手達と全国大会「ベスト8」を目指したい」と意気込みを語った。

附属高校の八幡文明校長は「本校の生徒をはじめ郡山、福島県の子どもたちの技術力向上のためにも頑張りたい」と語った。

モバイルサイトをご覧いただけます。

携帯電話からQRコードを読み込むことで、モバイルサイトへアクセスできます。QRコード読み取り非対応の方は、左記URLを入力することでモバイルサイトへアクセスできます。



http://www.koriyama-kgc.ac.jp

日本の心と美の祭典 世界大会に出場して

大学家政学部食物栄養学科2年 茅野 茜

今回、世界大会に出場して本当に貴重な体験ができました。あんなに大勢の人の前で、3人でパフォーマンスを交えながら着物を着るといことは、今後の人生では2度とないと思います。そして、自分もやればここまでできるという自信になりました。

大会を経験して学んだことは、技術も必要だが、人間性も大切だということです。このような大会では、着付けといってもただ着物を着るだけでなく、まるでダンスを踊っているような楽しさが必要です。ステージの上では笑顔でいること。練習ではあまり気を付けていませんでしたが、本番では笑顔を絶やさなかったことを念



世界大会に出場した左から、高岡美菜さん(大食2年)・茅野 茜さん(大食2年)・阿部弘奈さん(短大・福祉情報専攻2年)

頭にやっていました。これからの人生においても、笑顔は欠かせない大事なパーツです。嫌なことや辛いことがあっても、みんなには笑顔を見せられる、そんな余裕のある大人に、少しだけなれたと感じました。

ご指導いただいた先生方や、応援してくださった皆さん、一緒に頑張ってきた2人には心から感謝しています。上位入賞はできませんでしたが、それよりも、今まで見たことがなかった世界を経験することができて、少し成長できた気がします。今後は部の発展に向けて頑張っていきます!応援ありがとうございます!

お知らせ 大学・人間生活学科 市民講座を開催

郡山女子大学家政学部人間生活学科の市民講座が次の日程で開催される。

開催日/7月20日(土)午後1時から
場所/創学館521教室
○テーマ/統一テーマ「暮らしのページ」
○サブテーマ

「生活の中の色―平安の色、今の色―」生活総合コース 准教授 難波めぐみ
「認知症の理解」福祉コース 准教授 茂木 光代

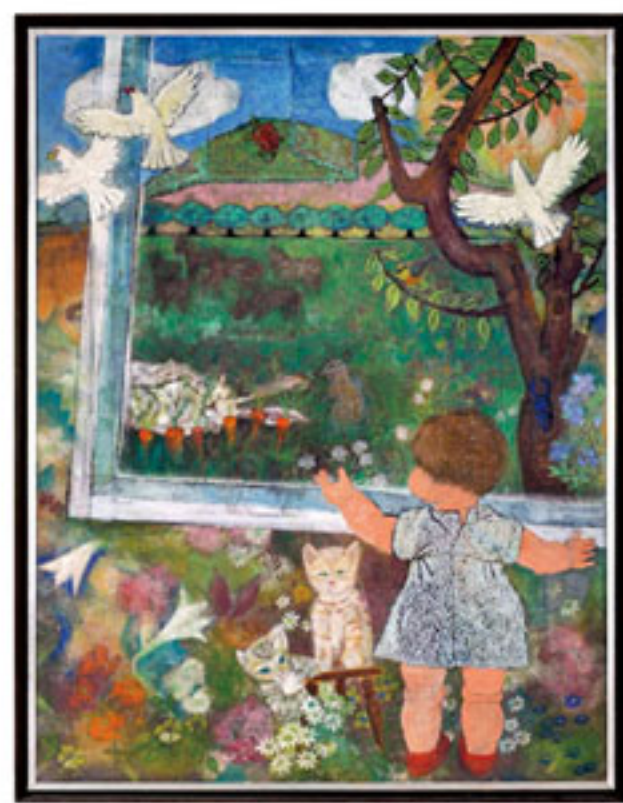
「住宅の断熱性」建築デザインコース 教授 山形 敏明
(入場無料)

※受講ご希望の方は
☎024(932)4848
大学・人間生活学科へ

本学所蔵 紙上美術展70

水彩画 「牧場のお話」 「張子とばあちゃん」

日本画家 大越 千ヨさん



「牧場のお話」



「張子とばあちゃん」

大越さんは1922年生れの91歳。昭和女子大学短期大学部家政科を卒業、中学校教師や郡山女子大学短期大学部生活芸術科非常勤講師などを務め、「年とってから前向きに生きてゆくためにすべきこと」を日々考えています」と精力的に講演などこなしていた。40歳から絵を習い、日本美術院・院友。院展入選10回、春展入選14回。大越さんの作品は建学記念講堂2階南側通路に展示されている。

木もれ陽

機会があり、防人の島、対馬に金田城(かなたのき)を訪ねた。金田城は朝鮮半島の侵略から対馬を守るために築城され、防人が詰めていた。城壁として、岸辺から山頂をおむすびの形に縁取る石壁が築かれている。

また、山頂の横の砲台は日露戦争に備えたものであり、今もどっしりとその威容を誇っている。登り50分の海抜276mの山頂からは、穏やかな浅茅湾が見え、この海上50km先には韓国の釜山がある。

防人は関東や東北からも多数徴集された。自給自足の生活の中、昼は耕しながら海上を見張り、夜は古

里や家族を想い、この森の中で寂寝をしたのであろう。万葉集には古里や家族を想う防人の歌がある。父母が頭かき撫で幸くあれといひし言葉忘れかねる(万葉集)

対馬の人々、防人、旧陸軍兵士の守った国境の島の初夏は、葉擦れの音と共に安らかな時が過ぎていた。下り始めてこの城跡で初めての人若者に出会った。赤いバンダナ、柔らかな京言葉、これが今日の防人の姿かと思いつつ別れた。対馬最大の港町の巖原には、韓国から多くの団体旅行客が来ており、身近な海外旅行を楽しむ、にぎわっていた。対馬は今も国境の島である。(近藤)